



Juju Information Vol.75

Juju(こと、野田樹潤)

スーパーフォーミュラ 第6-7ラウンド「富士スピードウェイ」に出場  
初となる2日連続の長丁場のレースを果敢に攻めて連続完走

Juju (こと野田樹潤。NODA レーシング所  
属) は、10月12日(土) -13日(日)、  
快晴のもと、富士山を間近に臨む「富士ス  
ピードウェイ」で開催された SUPER  
FORMULA 第 6-7 ラウンドに出場しまし  
た。



2024 SUPER FORMULA Round6-7 Fuji Speedway  
Credit: juju0.com

11日(金)のプラクティスは快走、十分に  
戦えるタイムを記録してチームに笑みが  
溢れます。

12日(土)の第6ラウンドは、予選では  
上手く纏めきれずに悔しい21番手からの  
決勝スタート。初めてアンダーカット(※)  
を使って先行車両の前に出ることを試み  
ましたが、ピットアウト直後に攻めてプッシュした結果、タイヤをロックさせてしまい、これが響いて、なん  
とも悔しい17位でフィニッシュ。



※アンダーカット：対象とする先行車両(ターゲット)よりも先にフレッシュなタイヤに交換することで速いペースで周  
回してターゲット車両との差を詰めておき、ターゲット車両がタイヤ交換のためにピットに入ったタイミングで、抜き  
去ろうという作戦。

翌13日(日)の第7ラウンドは、国内トップカテゴリー、スーパーフォーミュラの長丁場レースを、初めて  
2日連続で走るという未知の世界。予選21番手からの決勝スタート。前日のレースからセッティングを大幅  
に変えたマシンが思うように走らず終始我慢の走りとなりました。それでも他車とのポジション争いを繰り返  
し、結果は16位となりました。

この2レースを振り返って、Jujuは、「(今回のレースは、)今年1番悔しい結果でした。チーム一丸となっ  
て精一杯できる事をやりましたが、初日の走り始めの良い流れをさらに良い方向にもっていけませんでした。  
やり切った感がありませんでした。ただ、このセットの方向では、鈴鹿サーキットでの最終第8-9ラウンドの  
レースが厳しいことが事前にわかったのと、こうやってひとつでも上を狙ったポジション争いを考えたレース  
展開をすることで、悔しさを感じられるようになったことをポジティブにとらえています。」と、今季最終戦  
を見据えていました。



11日(金)のフリープラクティスは、「(マシン)セットの方向も良く、自分も乗れてきているなど感じら  
れる内容でした。タイム差も詰めていけて、良い流れを感じました。正直、乗っていて久しぶりに楽しかつ  
たです。」(Juju)と納得の結果。





12日(土)午前、第6ラウンド予選。Jujuは、「チームは、これまでのデータを基にマシンを進化させて持ち込んでくれました。走り始めから違いを感じました。プラクティスセッション、私たちのやるべき事を粛々と進めていき、少しずつセットアップを詰めながらタイムアップ。走り方も考えながらトライしました。最後のアタック合戦では、セクター2で失敗してしまいましたが、やるべき事はできたので良かったです。チームの雰囲気も良いので、このまま気を引き締めていきたいと思います。」と、臨んだ予選タイムは、変更したセッティングが合わずに、悔しい21番手。

午後の決勝は、スタート直後のレース序盤は集団についていく展開です。Jujuのすぐ前、予選20番手からスタートした小高一斗選手をブレーキングで差して、何度か抜けそうな場面もありましたが、序盤という事もあって無理はせず。ここで、チームは、ピット戦略を発動し、アンダーカットで前に出る事を狙って早めにタイヤを交換してプッシュする作戦に。チームからも直後にフルプッシュするように指示が飛びます。

ところが、タイヤ交換を終えてピットアウト直後の1コーナーで気合が入り突っ込みすぎて(Juju)、ブレーキをロックさせてしまいタイヤにダメージ。その後は騙し騙しの走行となったものの、それでも小高選手に再び1秒差まで詰め寄りましたが、アンダーカット実現にはいたりませんでした。レース後半は、あのタイヤ状況ではまともに走ることもできず悔しい結果となりました。

翌13日(日)の第7ラウンドは、スーパーフォーミュラに参戦した長丁場レースを今季初めて2日連続で走るという未知の世界。この日のマシンセットは、「これだけ変えたら全く別のマシンって感じ・・・」(Juju)というほど、11月の鈴鹿の事も考えたうえでの前日からかなり大幅な変更。予選タイムは1分24秒078で、前日と同じ21番手。前日よりも良くない感触でしたがトップからのタイム差は前日よりも更に詰め寄りました。

午後の決勝。スタートでポジションを2つ上げたものの、直後にエンジンにアンチストール(※)の制御が突然入って加速しなくなり、走行しながら制御を解除しているうちに集団から離されてしまいます。その後もセッティングの変更が裏目にでて思うようなハンドリングができません。終始我慢の走りを強いられます。前日のようなプッシュをして前を追いかけようということを考えることすらできませんでした。結果は、16位。  
※アンチストール: スタート時にエンジンがストール(停止)するのを防ぐために、トランスミッションを自動的にニュートラル(クラッチを切り離れた状態)にするシステム。

それでも、レース中に他車とのバトルを繰り返しながらの2日連続の長丁場レースには、「どれだけ身体への負担があるのかちょっと不安でしたが、これは走ってみたら割と行けるなって印象でした」(Juju)と、持久力に心配がない様子でした。

今回のレースでは、Jujuを支援くださっているミキハウスアスリートの飛込み・坂井丞選手、競泳・鈴木聡美選手、カー・羽根田卓也選手、卓球・平野早矢香選手のほか、250名を超えるスポンサー関係の皆様に来場いただきJujuに声援を送ってくださいました。Jujuは、「応援に駆けつけてくださった大勢のファンの皆さんが、声援を送ってくださいました。現地でJujuグッズを身につけて応援してくれたファンの皆さん、走りながら見えてました。横断幕もありがとうございます。旗も振ってくださってありがとうございました。そして、エンジニア、メカニックのみんな、精一杯できる事をやってくれてありがとうございました。今できる事、それはこの悔しい富士でのレースを、次に繋げていく事だと思っています。」と、静かに闘志を燃やしていました。



この件に関するお問い合わせ先: NODA RACING 広報担当 石川  
e-mail t.ishikawa@noda-racing-academy.org Mobile 090-8940-1683  
岡山・美作事務局 担当 須田  
Tel.0868-75-3283/Mob.090-5128-3064 mail k.suda@noda-racing-consultans.biz